

幼兒の齒に就いて

ドクトル 奥村鶴吉

私は始めて本會に罷り出た次第で御坐いますが實は先日幹事の方から何か齒の衛生の事に就いて話す様にとの事で御坐いました。そこで今日は乳齒と大人の齒の事に就いて大畧をお話することに致しました。此の齒牙については種々の方面から御承知の事と存じます。齒牙とは如何なるものとか其の働きに就いてなどいろいろの問題がありますが余り長くなり申すから申上げぬことに致しまして今日は乳齒と永久齒との關係に就いてお話を申すことに致します。それに就きましては先づ齒牙の名稱をお話申して置かねば御解りにくいかと思ひます。齒牙の名稱には吾々専門の方では特に種々の名稱を用ひてゐますがそれらは普通に必要な御坐いませぬから略しまして通俗の名稱に従つて申上りますが御承知の様に人は一生の間に二組の齒牙が出て來ます。一は乳齒といつて生れて六ヶ月位

から發生するもの一は永久齒といつて六才頃より發生するもので此外に俗にいふ親知ずといふのがあります。之は二十才前後に發生いたします。乳齒は暫時の間の働きを致しますので後に残りぬところから大人の齒と何等の關係もないものと思つて居る人が多くて乳齒一般の衛生又は其齶齒についてても多くは等閑にするもので御坐いますが之は永久齒に多大の影響を及ぼすのみならず齒牙發生の際發熱疾病等を招く憂が御坐いますから充分に注意しなければならぬことで御座います。

先づ齒牙の名稱を申上げて置きます。上の繪(畧す)に書きましたのは乳齒で下の方は六才頃の狀態を畫いたもので青く彩てあるのは凡て二十個ありましてつまりこれだけの乳齒を持つてゐるわけで御坐います。この内中央にあるのが中切齒次ぎが側切齒次ぎが犬齒それから第一小臼齒第二小臼齒といふ名を與へてをります。

これに對して永久齒は各片側に中切齒側切齒犬齒第一小臼齒第二小臼齒第一大臼齒第二大臼齒次ぎに觀知らずといふ齒があるので御坐います。

知の通り生れて六ヶ月か七ヶ月になりますれば始めてこの乳歯の中切歯が発生して来ます。それから九ヶ月位に第一臼歯がでて来ますし二ヶ月位たつと第一臼歯が出て次ぎに犬歯第二臼歯が出て参りますこの順序は永久歯のときも又同じいで御坐ます。かうして生後二ヶ年か三ヶ年の頃には凡べての乳歯が口腔中に出てしまひます。兎に角生後六ヶ月から三ヶ年の間に乳歯が生え揃ふことになります。

此れから永久歯は乳歯がごとく出てしまひますと中切歯、側切歯犬歯などいふ順に並んで發生しますが第一大臼歯は頭の部分だけ出てをります。凡べて永久歯の内一番に出で来るのは此第一大臼歯で御坐いますが多くは之れを乳歯とよく間違へて誤つて齲歯となし又は抜きとること等が御坐います之れは最も注意すべきことで御坐います。此の第一大臼歯は大黒柱ともいふべきものでもし誤つて之れを抜きとるときは歯並を悪くし延いては之れが遺傳して下顎骨が小さくなつて奇形

を齲する癖になります。御てこの第一大臼歯をうして見分けると申しますと之れは必ず第六番目の大きなので御坐います専門的に申しますれば見分けの方法も御坐ますが素人では數へて見るのが一番たしかで御坐いますで大抵六才位になつたらよく氣をつけるやうにしなければなりません。即ち六ヶ年になりますと第一大臼歯は頭を出して参りますが暫くの間は少しも口腔内に表はるる形跡が御坐いませぬ。それから更に進んで生後八ヶ年頃になりますと中切歯が出て参りますこの場合には乳歯が無くなつて其の後に生えます。九ヶ年には乳歯が無くすれば側切歯がでて十才ころになれば第一小臼歯がようやく頭を出して凡十一才頃になれば全く出て参ります、此の際尤も注意すべきは第一小臼歯が出て参りますには乳歯の中に始め頭のみ出すもので御坐いますからもし堅い物などを噛み或は乳歯に虫がつきますときはその發生を害することになります。次に十一才か十二才頃になると犬歯が出て續いて第二小臼歯が出て十二才より十四才の頃に第二大臼歯が出て凡そ十六才以上

二十才前後までに俗にいふ親しらすといふのが生えて茲に始めて總べての永久歯が生え揃ふことになります。斯様に永久歯の發生する順序を見ますと飛び／＼に出て來る結果乳歯と永久歯とを間違へて誤つたことをすることがまゝありますから其の交換する時をよく御承知下すつて充分御注意なすつて間違のない様に致したいもので御坐います。

次ぎになせかように乳歯と永久歯と交換しなければならぬかと申しますと、先づ人體全部について考へて見まするに手足其の他何れの部分も一つとして交換するものは御坐いません然し之等は嘗て第一に發達して各其の用を便するもので御坐います。然し歯牙は次第に發達するといふ様なことがなく乳歯は單に小供の時の用をなすのみで御坐います。永久歯は大人の顎骨に生えて堅きものを噛み砕くといふ必要な點を持つて居るので御座います。實に造化の妙をえたことと思ひます。斯様なわけで御坐いますから乳歯が自然にとれて永久歯が出やすい、状態になるので御坐いますが其の

乳歯が自然にとれて後から永久歯がかわるといふことは極順當に進行すべきものであります。何ういふ作用で是が順當に行くかと云ふと顎骨の中に永久歯が發生いたしますと云ふて其尖端は乳歯の齒齦を刺戟して之が原因となつて乳歯は根元より段々と溶解吸收されるので遂に其頭部が抜け落るのであります。若其の人が全身の營養が足りないとか、或は口腔中の衛生が不充分だとか、乳歯が病氣に懸つたとかいふ場合には永久歯が出様と思つても出ることが出來ない従つて種々の故障が生ずるので御坐います。まゝ乳歯の根が存在することのある理由は、大抵乳歯の衛生を等閑にした結果齒齦が腐つて齒牙が無生物となるため根を溶すことが出來ないので御坐います。故にもし乳歯を等閑に致しますときは今の様に根が溶ぬところから永久歯は他の部分に生えたり或は發生をさまたげられて遂に生えない様なことになるので御坐います。此點より考へましても大に注意すべきことで御坐います。殊に先程も申上りました様に第一大臼齒が六才頃出て來る處から多くの場合母親も之れを知

母の下御坐います。左程の遠のなところから多くは
 と外見に於いて左程の遠のなところから多くは
 之れを乳歯と間違て其の衛生に注意せずに放任し
 て置く爲めに大抵は之を齶歯にしてしまふのであ
 ります。ところが専門家の方より考ふれば第一大
 臼歯は尤も重要なもので上顎下顎の大黒柱ともい
 ふべきものです。何故かと申しますれば第一大
 臼歯は歯牙の中尤も大きく尤も堅牢なもので第一
 大臼歯の上に加はる力が一番大きなもので御坐いま
 す下もし之れが病氣に懸りますときは物を噛むと
 いふことが出来ない様になります。種々の患者に
 就いて調べて見ますると其の噛む力に強弱が御
 坐いまして其の相違は又非常に大なるもので御坐
 います。其理由は此歯の健否に因るので御座いま
 す。其の他第一大臼歯が必要なる理由は若し第一
 臼歯が病氣のため脱き取られたときは恐る
 べき結果を生じます。夫れは第二大臼歯が前の方に
 發生するので御坐います。丁度生後十三年位の場合
 に於いて第二大臼歯が出ようとするとき第一大臼歯
 が脱れたとすると第二大臼歯が前方によるから後部

にも骨の形が不齊になり、骨の形が不
 充分になつてきます。もし之が遺傳するときは
 骨の奇形を生ずることになります。然るに世の人は
 は多く此の理を知らぬ處から閉却に附せらるるの
 で御座いますからよく御注意下さらんことを望み
 ます。一寸此の第一大臼歯の見解方を申上ますと
 さまで困難なことでは御坐いません。
 第一は大抵子供の歯牙は契形をしてをりますが第
 一 大臼歯は臼形をしてをります。第二には前のと
 比べて大いさが違ふ第三には並んでゐるとします
 れば數へて第三番目にあるのが第一大臼歯である
 又熟練した目で見ますれば前のは青白色後のは少
 し黄色を帯びてをります。
 猶注意して戴きたいのは永久歯が發生の際誤つた
 ため根が残るときは往々齒齦を破ぶつて出てくる
 ことがあります。多くは左程懸念すべき事では御
 坐いせんけれ共折々唇や鼻に孔をあけること
 がありますから充分氣を付けねばなりません。
 次ぎに注意すべきはよくありがちのこと御坐いま
 すが前にも申上ました様に永久歯のてるとミ

は飛び飛びに出てくるもので御坐いますからもし早く犬歯を抜きとるときは第一小白歯が前の方によつて犬歯の位置に生える然るときは犬歯は出處がないため下の方に重つて生える様になります俗に之れを八重歯といつてをります。之れはつまり余り早く犬歯を脱きすぎた結果で御坐いますから此の犬歯に就いても充分注意をして齶歯にかゝらぬ様にしなければなりません。

保育叢話

(承前)

光藤 夫人

虚榮心の恐るべき害

虚榮の萌芽を摘み取ることに於いての意見は、いささか前述しましたが、實に此の世を擧つて虚榮の夢にあこがるゝの時自ら戒めて、此の害毒を避ける工夫が大切であります。とりわけ一家の主宰者一人或化の中心たる母親より此の念慮を賜透して自ら心を潔ふし質實な健全な氣象を養成し

て、我身先づ目につく服装よりすべて日常の身の廻りのもの、皆虚榮をさり己が一言一行にも意を用ひて、只管虚榮めきたる事のなき様、注意すること肝要であると思ひます。

魂より美を好むは人の情なり、不淨なるものより清淨なるものを愛するも亦人情自然なり、故に誰れにしても衣服にしてからが、汚ない衣服より美麗なものを好み、クスマミたるものより華美を好むに至るは止を得ない事でありますが、其處が氣の用ひ所意の練り所であると私は思ひます。

魂より美を好むの天性あり、以て虚榮に流れ易いのであります、其の時其の舜時、虚榮に流るゝを防ぎてきて魂より美に移る事が大切ではありますまいか、即ち虚榮とは讀んで字の通り徒らに外見を張るの所、アレモコーせては美しく見えない、コレモコーしないと華かでないといふ只モ一實を去り外見にのみ心を配るのであります。同じ魂より美に移るにしても、其の外見を第二におき只其の實質に重きをおいて、魂より美に移りましたならば、家何の害が伴ひませう、衣服にあれ器具にあれ、家